



2013 年 11 月 15 日

各 位

会 社 名 イオンフィナンシャルサービス株式会社
 代 表 者 名 代表取締役社長 神谷 和秀
 (コード番号 8570 東証第一部)
 問 合 せ 先 取締役 経営管理担当 若林 秀樹
 (TEL 03-5281-2057)
 当社の親会社 イオン株式会社
 代 表 者 名 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也
 (コード番号 8267 東証第一部)

平成 26 年 3 月期 中間連結会計期間業績予想と実績の差異に関するお知らせ

平成 25 年 5 月 17 日の決算発表時に公表した、平成 26 年 3 月期中間連結会計期間（平成 25 年 4 月 1 日～平成 25 年 9 月 30 日）の連結業績予想と、本日公表の実績に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 26 年 3 月期 中間連結会計期間業績予想数値と実績値との差異

(平成 25 年 4 月 1 日～平成 25 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	経常収益	経常利益	中間純利益	1 株当たり 中間純利益
前回発表予想 (A)	100,900	18,000	9,000	48 円 7 銭
実 績 値 (B)	130,562	12,352	2,537	13 円 24 銭
増 減 額 (B - A)	29,662	△ 5,648	△ 6,463	—
増 減 率 (%)	29.4	△ 31.4	△ 71.8	—

(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 24 年 2 月 21 日～平成 24 年 8 月 20 日)

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株 当 たり 四半期純利益
平成 25 年 3 月期第 2 四半期	88,243	12,930	13,039	6,120	42 円 3 銭

(注) 当社は平成 25 年 3 月期より決算期を 3 月末に変更いたしました。また、銀行持株会社化に伴い、財務諸表等の様式を変更しております。

2. 差異の生じた理由

当中間連結会計期間においては、本年 4 月 1 日より銀行持株会社へ移行し、「融資事業の利便性向上」「マーケティング力の強化」「海外事業の拡大」「生産性向上と営業力の強化」の 4 つのシナジー実現に努めてまいりました。

これらの実現に向け、継続した会員募集の強化に加え、定期預金金利優遇企画等の経営統合キャンペーンや利用促進企画の実施により、イオンカードセレクト会員数は 227 万人（期首比 31 万人増）に拡大するとともに、カードショッピング取扱高は 1 兆 6,847 億 26 百万円（前年同期比 113.9%）となりました。また、イオン銀行 A T M の増設及びクレジットカード与信基準の見直しにより、カードキャッシング取扱高は 1,722 億 95 百万円（同 203.9%）と順調に推移いたしました。なお、香港では銀行ライセンスの取得を目指し、経営管理体制の強化に取り組んでおります。

さらに、イオン銀行の預金調達機能を活用した有利子負債の圧縮や、本社、事務センターを集約し、ネット部門に加え、新規出店した銀行店舗等への人員シフトを図る等、営業力を強化いたしました。これらの取り組みにより、経常収益は前回発表予想を上回りました。

経常費用につきましては、経営統合に伴う各種キャンペーンの展開や、重複部門の集約を前倒しで行うとともに、イオン銀行 A T M を 1,143 台増設（累計 3,823 台）する等、積極的な先行投資を実施いたしました。また、台湾連結子会社の不祥事案による約 30 億円の影響額を計上した結果、経常利益及び中間純利益については、前回発表予想を下回りました。

以 上